



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・福音 教会が、信仰について語り合う場、目に見える愛の実践の場となりますように
- ・日本 人類が、すべての被造物を尊重する責任を果たすことができますように

諸宗教対話の役割強調
比叡山宗教サミット 30 周年

聖ヨハネ・パウロ 2 世
教皇が 1986 年にイタリアのアシジに世界の宗教者を招いて開催した「世界平和祈禱集会」の精神を継承し、同集会に参加した山田恵諦天台座主の尽力により始まった比叡山宗教サミットが今年で 30 周年を迎えた。日本宗教代表者会議(高見三司大司教も名誉顧問の一人)は、これを記念する「世界宗教者平和の祈り」の集いを 8 月 3 日(木)、4 日(金)、京都国際会館

聖ヨハネ・パウロ 2 世(基調講演・シンポジウム)と比叡山延暦寺(平和の祈りの集い)を会場に開催。国内をはじめ、欧米、中東、アジア、アフリカから、仏教、キリスト教、イスラーム、ユダヤ教、ヒンドゥー教、ゾロアスター教の宗教指導者が参加した。この集いに教皇フランシスコは、ご自身の特使としてジョン・トン・ホン枢機卿(香港教区司教)を派遣し、「心から神に祈ることは、平和の実現に至る道と信

じる」として、諸宗教対話が世界平和の構築に果たす役割の重要性を強調し、30 年にわたって国内外の宗教者を招き継続してきた祈りの集いに対する敬意を伝えた。

高見三司大司教は、「核廃絶と原子力問題を考える」分科会にパネリストの一人として登壇。被爆都市の司教として被爆の実相を紹介し、「原爆の使用は犯罪であり、核兵器は徹底して地上から廃絶すべき」と力強く訴えた。

比叡山延暦寺では、宗教代表者が登壇し、世界平和のために参集者全員で黙祷した後、「我々宗教者はいかなる理由があ



平和を象徴するひまわりを子どもたちに託す高見大司教

ニューサのグレゴリオスの著作「モーセの生涯」は、競技場で馬を走らせる騎手たちに熱狂する観衆の描写から始まる。頭を上下させ懸命に駆ける馬とそれを操る騎手たちの姿に興奮し、絶叫し続ける観衆。同じような興奮を自分は今味わっているのかもしれない、と老司教は述懐する。▲この著作は、すでに年老いたグレゴリオスがある若い修道士から完徳についての助言を求められた折に書かれたもので、その中で彼は、神のみが完全なお方であり、その神の完全性にあずかる道とは、限界を定めずに、ひたむきに上のものを求め続ける生き方のことである、と言っている。つまり、この年老いた司教に感動と興奮を覚えさせているのは、若い者たちがより美しく尊いものを求めてひたむきに前進しようとする戦う姿だったのである。▲たとえば司教・修道者たちの従順は単に、組織の円滑な運営のため、あるいは精神の鍛錬のために役立つものなのではない。ミラノのアンプロジウスは、御子による御父への従順を、御父と御子の区別の根拠として捉えるよりもむしろ、両者の一致の原理として捉える。御父が御子への愛によって、御子が御父への従順によって、両者が一つであるように、われわれの従順もキリストとの一致を目指す、大いなる挑戦なのである。▲魂の挑戦として、若者たちよ、司教・修道者を目指してみな

聖母の取り次ぎを願って

長崎と佐世保で平和祈願祭



すべての人と平和に暮らしたい

ローマ 12・18

―長崎―

原爆投下から 72 年を迎えた今年 8 月 9 日(水)、長崎大司教区は平和祈願ミサと平和集会を行い、原爆と戦争で亡くなった人々のため、また、世界平和の実現を願って祈りをささげた。

昨年引き続き、子どもたちの参加を意識した典礼で進められた平和祈願祭。今年のテーマは「神よ、わたしをあなたの平和のために用いてください」。午後 6 時から浦上教会で行われたミサは高見三司大司教が主司式し、8 人の司教と駐日教皇庁大使館の参事官、50 人余の司祭が共同司式し



す」と語り、聖母の取り次ぎを願って心を一つに祈りを求めた。

そして、説教の中で大司教は「私たちはキリストだけが与えてくださる平和を求め、平和を破壊する原爆とあらゆる暴力を排除する努力を続ける必要がある」ことを述べた。最後に「平和のことを考え、自分にできる何らかの貢献をすることはキリスト信者の務め」

だと強く説いた。

―佐世保―

ミサ後、被爆マリア像を先頭にしたいまつ行列が行われ、ロザリオを唱える祈りの声と共に、光の行列が浦上教会から平和公園まで続いた。公園では、みことばの朗読と 3 人の子どもたちによる祈りへの招き(写真)があり、平和祈願祭を終えた。



講じる同修道女は、神のたまものをただひたすらに受けとめていく聖母の「フィアット」の生涯を豊富な画像とともに紹介しながら、たまものである平和を願うにはどのような心が求められるか聴衆に問い掛けた。参加者は、

自分の心の中にある平和に反する思いや自分を例外にして他者を裁く傾きとの「闘い」が平和を受け取るために必要だとの気づきを与えられた。

第三部は高見大司教と地区司祭団の共同司式ミサ。大司教は説教の中で、8 月 15 日が聖母の被昇天の祭日、終戦の日、さらにはフランシスコ・ザビエル

講演とミサ通して考える

福岡・大名町教会で集い開催

2017 日本カトリック平和旬間(8 月 6 日、15 日)賛同企画として、福岡教区主催、日本カトリック社会司教委員会と長崎教会管区共催の「平和を祈る集い」が 8 月 11 日(金)、福岡教区カテドラル大名町教会で開催された。長崎教区を含め、各地から集まった参加者 400 人余が、講演会とミサを通して平和を祈る一日を過ごした。

集いでは、教皇フランシスコによる回勅『ラウダート・シ』翻訳者の瀬本正之師(イエズス会)と、『今こそ原爆の廃止を―日本のカトリック教会の問いかけ』(カトリック中央協議会)執筆・編集者の一人、原田雅樹師(ドミニコ会)の講話があった。その後、講話を受けて、高見三司大司教から「生活を簡素化し、問題のある物を作り出さ

ないようにはしないといけない。私たち皆が責任を持たなければならない」との呼び掛けがあり、平和祈願ミサ(写真、左はファティマの聖母像)をもって集いを終了した。

故郷長崎を離れて 14 年目です。お世話になった皆さんお元気でしうか。先日は『平和を祈る集い―地球という共通の家に暮らすすべての人へ』で事務局として働かせていただきました。福岡、長崎、大分の各教区から、それぞれの教区長様をはじめ 400 人を超える方々にご参加いただき、ありがとうございました。

私は 2015 年に福岡教区の承認をいただいた、「社会福音ネットワーク・福岡」を中心に活動しています。この会は、ホームレス支援、福島第一原発事故被災福島家族支援、ピース 9 の会、外国籍問題支援など多くの活動グループで構成されています。私たちのテーマは、「見て、聞いて、知って、働く」

そのためにそれぞれの活動を広く教区内外に情報発信を行っています。今回の『平和を祈る集い』もその一環としての活動です。

現在、このような奉仕活動をさせていたのですが、私の原点はやはり浦上教会での体験以外の何物でもありません。学生会、青年会活動を初めに、何よりも十字架山から赤城墓地を抜けて浦上天主堂へ、さらに如己堂から平和公園、原爆落下中心地など浦上の地からの呼びと教え、それらの学びによって培われたものと思っています。長崎・浦上の地から『平和ってこれだ!』とのメッセージが、遠く離れた福岡の地までいつも響き渡っています。

高宮教会信徒 青木篤孝

9 月 19 日(火) 18 時 30 分から
浦上教会でミサ

ローマ教皇庁福音宣教省長官フルナンド・フィローニ枢機卿様が、9 月 17 日、25 日、司牧訪問のため来日されます。司教団、司祭・修道者、神学生・志願生、信徒との交流を希望です。長崎では 19 日にミサをささげられますので、できるだけ多くの方の参加をお願いします。

ニユッサのグレゴリオスの著作「モーセの生涯」は、競技場で馬を走らせる騎手たちに熱狂する観衆の描写から始まる。頭を上下させ懸命に駆ける馬とそれを操る騎手たちの姿に興奮し、絶叫し続ける観衆。同じような興奮を自分は今味わっているのかもしれない、と老司教は述懐する。▲この著作は、すでに年老いたグレゴリオスがある若い修道士から完徳についての助言を求められた折に書かれたもので、その中で彼は、神のみが完全なお方であり、その神の完全性にあずかる道とは、限界を定めずに、ひたむきに上のものを求め続ける生き方のことである、と言っている。つまり、この年老いた司教に感動と興奮を覚えさせているのは、若い者たちがより美しく尊いものを求めてひたむきに前進しようとする戦う姿だったのである。▲たとえば司教・修道者たちの従順は単に、組織の円滑な運営のため、あるいは精神の鍛錬のために役立つものなのではない。ミラノのアンプロジウスは、御子による御父への従順を、御父と御子の区別の根拠として捉えるよりもむしろ、両者の一致の原理として捉える。御父が御子への愛によって、御子が御父への従順によって、両者が一つであるように、われわれの従順もキリストとの一致を目指す、大いなる挑戦なのである。▲魂の挑戦として、若者たちよ、司教・修道者を目指してみな

連載企画(全5回)

150周年を記念する 浦上四番崩れ―第2回

純心聖母会 片岡千鶴子

二、迫害の始まり

―桜町牢の辛い体験
「改心」の爪判を押す！

奉行所の捕り手たちが、大挙して押し掛けて来たのは、1867年7月15日の明け方3時頃でした。秘密教会は荒らされ、寝込みを襲われた信徒68人が桜町の牢に投獄されました。浦上四番崩

れ」の勃発です。

キリシタン捕縛の報に、外国領事たちは人道に反すると抗議を申し入れました。しかし、長崎奉行はキリシタンは国禁の宗教であるから当然で、外国の干渉を受ける筋合

いはないと応じません。桜町牢の信徒たちは、毎日ご用に引き立てられ「改心せよ」と責められ

ます。仙右衛門は堂々と役人と問答し、一歩も引きません。しかし、熱心ではあっても皆が仙右衛門のように反論できるわけではありません。役人の巧みな尋問に誘導されて21人が棄教してしまいました。これに勢いを得た役人は、信仰堅固な若者6人を「駿河問い」という酷い拷問にかけて虫の息のようになったのを、門口に引き摺り出して転がすと見せしめのために入牢者を次々に呼び出しました。それを見た信徒たちはすつかり怖じ気

います。仙右衛門は「改心した者を見捨てぬように」と村人をさとし「一方、天主とサンタマリアさまの力をもって立ち返るよう、改心戻し」を呼びかけます。翌日には大勢で庄屋に「改心戻し」を願ひ出ました。庄屋は「その願ひ適わぬ」と驚き怒りますが、「ならばお代官に直訴します」という信徒の決意に、この次第は奉行所に報告され、10月12日呼び出しがあり、12月に王政復古の政変が起り、時代は江戸から明治へと大きく変わろうとしていたのです。(続く)

教区家庭委員会カレンダー 「ともにあゆむ」のご案内



このたび、長崎教区家庭委員会では、信者が典礼暦年と自らの信仰をより身近に感じながら一年を過ごす一つの方法として、このカレンダーを企画しました。

ご家庭、あるいは会議を行う場所など、日ごろ目につくところに掛けて利用していただくと幸いです。

余白には、誕生日、霊名のお祝い日、結婚記念日など、家族の記念日を書き込んだり、亡くなった家族、友人、知人の命日を書いたりすることができ、他にも、教会の行事を書き込むなど自由に利用していただきたい。

余白には、誕生日、霊名のお祝い日、結婚記念日など、家族の記念日を書き込んだり、亡くなった家族、友人、知人の命日を書いたりすることができ、他にも、教会の行事を書き込むなど自由に利用していただきたい。

新刊良書

★明治の東海道を歩いた宣教師 テストヴィド神父書簡集 著 中島昭子
キリシタン禁令が撤廃された1873年、日本に派遣されたテストヴィド神父は徒歩で東海道を岐阜まで巡り、福音を伝え、御殿場にハンセン病患者のための神山復生病院を創設。本書はパリ宛ての師の18通の書簡から、その活動をたどる。ドン・ボスコ社、税別1200円。

★ユスト高山右近列福式ミサ公式記録集
2017年2月7日大阪城ホールで挙行された列福式ミサと関連諸行事を含む公式記録集。カトリック中央協議会、税別2300円。

神のいつくしみを 共に生き、伝える

共に生き、伝える

2015年3月17日教区シノドス閉会後、同年9月に第1回教区シノドス提言推進会議が行われ、今年7月までの間、計7回にわたって会議が開かれてきた。長崎大司教区は、「カテキスタ養成」「小共同体づくり」「ミゼリコルディア長崎の発足の三本柱を活動方針に掲げ、現在、具体的な準備を進めている段階。それぞれの担当司祭に、「一番大事だと思ってる進めていること」「一番伝えるべきこと」を執筆いただく。(広報委員会)

公式提言が私たちの 生活に定着するために

教区シノドス提言推進会議
事務局 下智英知

教区シノドスの公式提言には、個人や家庭レベルで心がけることや、小教区で実施すること、地区や教区で展開しなければならぬことなど、さまざまな実施主体が混在しています。教区シノドス推進会議では、全教区的な課題を取り扱っていますが、全教区的に展開していることだけが、シノドスの取り組みではありません。そこで、まずは個人の信仰生活の中で意識すべき公式提言を取り上げることにしませう。特に、提言1の主なもの、毎日口にして、心に刻み込みたいものです。

1・1 回心のために
毎日、晩の祈りのとき、あるいは寝る前に自分の生活を振り返る習慣を身につける。回心とよりよい信仰生活のためにゆるしの秘跡に積極的に近づく。

1・2 人間としての成熟のために
分け隔てなく人にあいさつをし、笑顔で心をかける。他人の話をよく聴き、自分の考えを正しく伝える努力をする。異なる意見や考え、民族、言語、文化、宗教の人を尊敬する。

これらを実践するために、朝夕の祈りのとき、あるいは寝る前に、自分の生活を振り返りながら、次のフレーズを口ずさんでみましょう。

「笑顔、あいさつ、傾聴、尊敬をもって人に接し、自分の思いを伝えるときは丁寧な」

「いつも共にいてくださる神様に感謝」

「私も、人を愛することができまうように」

奉献生活者に問われていること カン司教を招き研修会開催

7月16日(日) 間のお金で決着することを韓国日本女子修道会総長会主催の研修会が、カトリックセンターで行われました。講師は韓国済州教区のカン・ウィル司教様で、テーマは「グローバル社会の中で奉献生活者に問われていること」。

「原子力発電は人間の生命と自然環境に多大な影響を及ぼし、壊滅的災害を引き起こしかねない。福島では住民、行政当局も混乱し、心身共に脅かされている」と、地球の起源から現代に至るまでの人類と自然環境の推移、特にこの200年間の急速な環境破壊の現実を説明されました。今、私たちは未来への責任を果たすために、教皇フランシスコの『ラウダー・シ』の精神に合せて地球環境に関わる必要を強く感じました。

また、「日韓の国家間には、日清戦争、太平洋戦争など歴史の教育と認識の違いがある。特に従軍慰安婦にされ傷ついた人々の心を開こうとしないで、政府

との教えを身をもって体験した信徒たちは、「たとえ体がくたくたとも天主のお恵みをもつて、この身を天主にささぐる」との決心を致し、殉教覚悟で出頭しました。

ところが奉行所は「沙汰あるまで待つべし」と言い渡し、監視つき庄屋預けにして帰します。信徒たちは知る由もありませんでしたが、10月14日に將軍慶喜の大政奉還、12月に王政復古の政変が起り、時代は江戸から明治へと大きく変わろうとしていたのです。(続く)

余白には、誕生日、霊名のお祝い日、結婚記念日など、家族の記念日を書き込んだり、亡くなった家族、友人、知人の命日を書いたりすることができ、他にも、教会の行事を書き込むなど自由に利用していただきたい。

余白には、誕生日、霊名のお祝い日、結婚記念日など、家族の記念日を書き込んだり、亡くなった家族、友人、知人の命日を書いたりすることができ、他にも、教会の行事を書き込むなど自由に利用していただきたい。

人事異動・任命

() 内は前任地

▼神言修道会(8月1日異動) (1)は7月21日
濱口 末明師 純心聖母会養護老人ホーム恵の丘(聖ルドヴィコ神学院院長) ティブルティウス・ヘリ師 聖ルドヴィコ神学院院長(岐阜・多治見修練院) フランシスクス・アシジ・モルク師 西町教会協力司祭 (多治見修練院内) 上村 勉師 多治見修道院院長(1) (西町教会協力司祭)

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

メモリアル 事務局 ペトロ 田川慶司

0120-44-6666

なが さき せき ちよう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

石 碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛

本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

本当に学ぶべきことは

高校生ら、沖縄平和学習へ



のかを、その経験をもつて教えてくれる。戦争の痕跡が示すその残酷さ、惨めさなどから私たちが本当に学ぶべきことは、戦争を起こす人間の心考えである。

なぜ太平洋戦争が起こったのか、太平洋戦争は誰が、何のため起こしたのかについて学ばなければならぬだろう。沖縄の大多数の資料館・記念館には、これについての言及があまりないように見えた。

7 月 31 日 (月) ～ 8 月 3 日 (木)、教区平和推進委員会 (岩村知彦委員長) 主催の沖縄平和学習が、高校生 5 人を含む計 10 人の参加のもと現地で行われた。高校生に同行した参加したキム・ボム助祭 (大邱教区から長崎教区へ派遣されている) は、次のように語っている。「直接戦争を経験し、戦争の悲惨さを目にした沖縄は、私たちに平和というものがどれほど大切な

隔ての壁を取り除いて

原爆殉難者慰霊祭

長崎原爆から 72 年になる今年、8 月 8 日 (水) 長崎県宗教者懇話会主催の原爆殉難者慰霊祭が原爆落下中心地公園で開催された。

今年 7 月に国連で核兵器禁止条約が採択されたものの、日本政府や核保有国の多くがこの条約交渉に参加していない現実の中、キリスト教・神道・仏教・諸宗教の多くの宗教者が宗教・宗派を超えて集まり、国内外の一般参加者と共に核廃絶・世



唱団とルンビニーコーラスなど 3 団体の賛歌合唱へと続いた。お清めの儀では高見三明大司教と共に教皇庁諸宗教対話評議会次官のミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット司教が原爆殉難者の碑に清めの水をふりかけた。続く慰霊のことばでは藤井清邦牧師 (日本基督教団長崎古町教会) が長崎県宗教者懇話会を代表して「隔ての壁を取り除き、対立と敵意を乗り越え共に歩み出していきたいと思います」と呼び掛けた。毎年慰霊祭のお世話をしている女性は、「年々参加者が増えているのを感じます」と語っていた。

平和について考える

広島ピース・スタディー



教区平和推進委員会主催の広島ピース・スタディーが 8 月 5 日 (土)、

デイリーが 8 月 5 日 (土)、6 日 (日) に行われ、中高生 12 人 (稲佐 1、西町 1、深堀 1、植松 3、水主町 4、紐差 2) と大人 9 人の総勢 21 人が広島を訪問した。

5 日は平和記念資料館を見学し、カトリックと聖公会との合同プログラムに参加。平和行進 (写真) をし、カテドラル戦町教会での平和祈願ミサで共に祈った。資料館で

心のこもった歌と演奏

長崎平和を願うコンサート

教区平和推進委員会と長崎平和を願うコンサート実行委員会が主催する「第 11 回 NAGASAKI I 平和を願うコンサート」が 8 月 11 日 (金) 中町教会で行われ、参加者は音楽を通して平和への思いを新たにしました。



出演したのは島原高校管弦楽部や深堀教会聖歌隊など 8 団体の他、県内各地で活動する演奏家ら計 100 人余。ゲストコンサートマスター (バイオリン・七澤清貴さん)

も迎え、全出演者が美しく、心のこもった歌と演奏を披露した。管弦楽と合唱の部に統

巡礼者のための『コンタツ堂』

浦頭教会そばに無料休憩所

今年のご復活の日 4 月 16 日、浦頭教会すぐそばに『コンタツ堂』という無料休憩所がオープンした。同教会の信徒家族がかつて自宅と店舗を兼ねていた建物を利用して作り、土曜・日曜の 9 時～16 時に開いている。



運営には赤尾スエミさんを中心に、長女・百合枝さん、三男・弘樹さん、甥・勝也さんらがボランティアで携わっている。

『コンタツ堂』の前で (4 月開設当時)

開設のきっかけは、「巡礼者が (ブラジル宣教に赴いた) 中村長八神父様ゆかりの地を訪ねて来た時に、師の功績を伝える場所が地元浦頭に無いと感じたこと。建物が『赤尾酒店』だった頃から、訪れた方々に『ふくれもち』を提供していたことなどもあり、建物を無料休憩所にと家族の思いが一致したこと」だった。

「巡礼者が (ブラジル宣教に赴いた) 中村長八神父様ゆかりの地を訪ねて来た時に、師の功績を伝える場所が地元浦頭に無いと感じたこと。建物が『赤尾酒店』だった頃から、訪れた方々に『ふくれもち』を提供していたことなどもあり、建物を無料休憩所にと家族の思いが一致したこと」だった。

有のものをそろえた図書コーナー、手作りのロザリオや書籍などの販売コーナーもある。「訪れた方々に、再び五島巡礼に訪れたいと思っていただけであって、時間があるとロザリオを唱える姿がいつもありました。祖母の祈る姿とコンタツという言葉を残したいの思いから、この名前にしました」と話す。休憩所には中村長八師のコーナーが設けられ、他に、絵本やキリスト教関連の書籍など家族所で検索。

世界恒久平和を願う

長崎市平和祈念式典

被爆 72 周年を迎えた 8 月 9 日 (水)、長崎市主催の平和祈念式典が平和公園で行われ、被爆者や遺族、市民らが参列、総理大臣の他、58 の国や地域の代表らが出席した。田上富久長崎市長は平

和宣言の中で、核保有国などに対しては核兵器によつて国を守ろうとする政策の見直しを、日本政府に対しては唯一の戦争被爆国として核兵器禁止条約への一日も早い参加を目指し、核の傘に依存する政策の見直しを進めるよう訴えた。

『教育』をテーマに

山内清海師の第 2 回講演会

8 月 20 日 (日)、長崎市の立図書館多目的ホール (長崎市興善町) で、山内清海師連続講演会の 2 回目が開催された。



けた。

第一の『教育とは何か』では、「人格的存在、社会的存在である人間の完成」という教育の目的が明確にされた。

現代社会の間に生きる

なぜ生きなければならないのか?

社会に潜む現実的・具体的な問題を浮き彫りにしてその核心に迫り、正しい生き方を模索したいとの思いから連続講演会を企画しました。第 3 回の演題は「なぜ生きなければならないのか?」です。

講師 山内清海 (長崎教区司祭、神学博士・哲学修士)
日時 10 月 22 日 (日) 14 時 30 分～16 時 (14 時開場)
場所 長崎市立図書館多目的ホール (興善町 1-1)
入場料 無料
主催 ミカエル会
連絡先 095・862・1892 (小畑)

動いて
学んで

子どもたちの夏いろいろ

召命委員会や地区主催の行事

召命フェスティバル
in 雲仙

7月31日(月)教区召命委員会岡秋美委員長主催の召命フェスティバルが雲仙メモリアルホールで行われた。8回目と



なる今回は、長崎の各地区から小学校高学年約240人、大人90人の計330人余が参加した。午前10時から午後3時半まで、ミサ、雲仙地獄巡礼、バンド演奏、レクリエーション(写真)が行われた。ごミサの中では長崎カトリック神学院院長の松田聡史神父様がプロジェクターを使って、神父様・シスターのお仕事について分かりやすく説教した。昼食後は、島原教会主任の山田聡神父様が雲仙の殉教者について話をしてくださり、その後、地獄巡礼。メモリアルホールに帰って来

ドッジボール(長崎) 長崎3地区子どもスポーツ大会が、7月27日(木)シーハットおおむらで開催された。競技はドッジボール。18教会20チーム、約350人の子どもたち



の参加があり、保護者も巻き込んで今年も熱戦が繰り広げられた。大会結果は、浦上Bが優勝、滑石Bが準優勝、深堀が3位。結果もだが、それ以上に、開会式と

も行われたみことばの祭儀の中でキム・ボム助祭様が言われていた「ドゥンマイ、(don't mind)」の精神、イエス様の愛の精神があふれていた大会となり、素晴らしいものであったと感じた。

大きな事故・けがもなく、無事にこの大会を終えられたことを、神様とお手伝いいただいた多くの方々に感謝申し上げます。

(実行委員長 山内啓輔)

ドッジボール(佐世保)

お盆の暑さも厳しい8月13日(日)、佐世保地区子どもドッジボール大会が、総合グラウンド体育館で行われました。

各教会から全18チーム、総勢約280人の子どもたちと応援の教会家族たちが、ひとつところ

「友人」という言葉は、私たちの幼い時から共にある言葉です。幼稚園の子どもたちでもその言葉の意味をよく理解しています。ある人にとって友人とは、近しい人、すべての事を話せる人かもしれません。もしかして何も話さなくても、すべて理解してくれる人です。友人とは、もしも苦境に陥った時でも離れることなく、間違いをした時にも背を向けることはなく、私たちを見捨てない人です。私たちの喜びや成功したことだけを分かち合うのではなく、悲しみ、苦しみ、失敗なども分かち合える人です。友人とは、私たちをほめることもしますし、もし私がふさわしくない振る舞いをした時には、真実を言うことを恐れない人です。それ故、聖書は、このような友を「宝物」と呼んでいるのです。

(シラ書6章14節)

誠実な友は、堅固な避難所。その友を見いだせば、宝を見つけたも同然だ。

みことばにふれて 140
Sr. ツェリナ・スキビツカ
(けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会)



のテキストも見つけることができます。イエス様は良い知らせを伝えるために、最初に弟子たちを派遣した時、一人ずつではなく、二人を遣わしました。オリブの園に祈りに行く時、ひとりではなく、弟子たちをそばに呼びました。ご自分の友と呼んだ、ラザロの墓のそばに立った時、涙を隠しませんでした。

なぜ、私たちの人生において、友人が大切なののでしょうか? どうして神様は永遠の知恵と愛において、私たちに友人を下さったのでしょうか? その答えは聖書の初めの部分「創世記」に見いだすことができます。神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。(創世記1:27)

冒頭のシラ書に書かれている箇所は、私たちの人生における他の人間の存在について語っていますが、この部分だけではありません。聖書の中には、共同生活に関して



結果は、(第1コート)①優勝 褥崎・大加勢 ②準優勝 鹿子前・船越 ③3位 佐々・潜竜 (第2)①大野 ②相浦B ③大崎A (第3)①早岐 ②浅子 ③褥崎・大加勢 A。

子どもたちはミサの流れを知り、ミサとイエスの十字架のいけにえ、最後の晩さんとのつながりにも理解が深まった。平戸地区としても、「8小教区の司祭同士の助け合い」「地区の子どもたちを同じチームで信仰教育する」両方の目的にかなう結果となった。

合同黙想会(平戸)

7月25日(火)に平戸地区で小中学生の合同黙想会が田平教会を会場に行われ、8小教区から小中学生約150人が集まった。この黙想会は、今年4月の司祭異動後開かれた司祭会議ですぐに議題に取り上げられ、8小教区いずれも気にかけている取り組みだった。今回の黙想会のテーマ

は「ミサ」についてで、小学生低学年と高学年、中学生の3クラスに分かれた。

この日は最後に感謝のミサをささげ、「天の国のことを学んだ『小さな』学者たち」が、大きな声で歌い、招きの祈りに答えて、ミサ聖祭にこれまで以上に積極的に参加し、実りある黙想会となった。(田平教会 中田輝次)

マリア
林キク修道女
(お告げのマリア修道会)



マリア
中村ヤスエ修道女
(至聖贖罪主女子修道会)



マリア・マグダレナ
齊野佳代子修道女
(純心聖母会)



7月8日、平戸市民病院で逝去。92歳。1925年平戸市生まれ。46年田崎愛善会(後の紐差修道院)に入会。58年初誓願、64年終生誓願宣立。田崎からの移転、保育園の創立・移転など紐差修道院の歩みのために生涯の大半をささげ、また、八幡町教会で後の糸永真一司教の賄いを皮切りに、カトリックセンター、上神崎教会、宝亀教会で司祭館での奉仕に励んだ。多くを語らない穏やかなシスターは行動で姉妹たちに模範を示した。葬儀ミサ・告別式は10日、紐差教会で行われた。

7月13日、田上病院で逝去。86歳。修道生活59年。新潟県出身。1955年、鎌倉レデンプトリスタン修道院に入会。58年初誓願、61年莊嚴誓願。その後、上諏訪修道院で働き、70年頃長崎修道院に転籍する。大変きれいな好きで、修道院が清潔に保たれるよう気をつけた。仕事をまじめに果たし、大きな病気にもかかったが忍耐を続け、死が近づいていることを知ると、良い死を迎えられるよう祈りを願っていた。

7月14日、聖フランシスコ病院で逝去。76歳。鹿児島純心女子高校在学中に受洗。卒業後は鹿児島純心女子学園に勤務。67年入会。69年初誓願。79年終生誓願。同会の浦上(長崎)、鹿児島で中学・高校の事務司書として、川内(鹿児島)では高校の購買部に27年間勤め、生徒たちに優しい関わりと心遣いを示し慕われていた。2015年6月にすい臓がんが判明。治療と闘いながらも、忍耐強く前向きに乗り越えようと努めていた。奉獻生活48年。葬儀ミサ・告別式は17日、本部聖堂で行われた。

カトリック深堀教会納骨堂「ラザロ館」

納骨櫃
好評販売中!!

1室 55万円 プラス維持管理費20万円(50年分)

●風光明媚な深堀の丘の上にある静かな環境! ●車横付け・駐車場完備!

お問い合わせ
お申し込みは

カトリック深堀教会

長崎市深堀町5-272
☎ 095-871-3459
受付時間 10時~15時(但し月・祝祭日を除く)



下段は骨壺(大)が4つ入る大きさです



長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5
TEL 095-845-6175

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

ご先祖に心より感謝を・・・

材石治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008